

佐伯は宝の山と海

僻南の

まほろばを

歩く旅展

僻南=南の僻地

大分県の南部、地勢的に孤立した「佐伯」は「僻南」

まほろば=理想郷

僻地ゆえに、宝の山と海に恵まれた「佐伯」こそ「まほろば」

2026

6/11 Thu.



26 Fri.

大分県庁  
議会議棟 1Fロビー

6月19日に展示入れ替えがあります。

6/27 Sat.



7/5 Sun.

大分県立美術館 1Fアトリウム

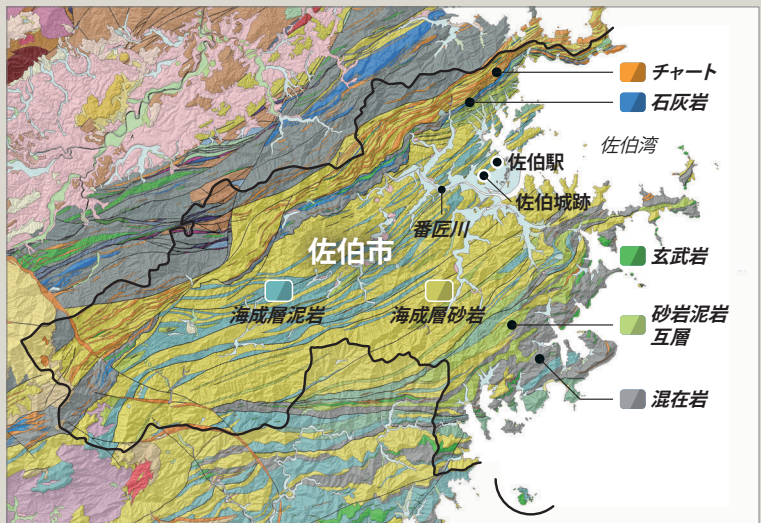
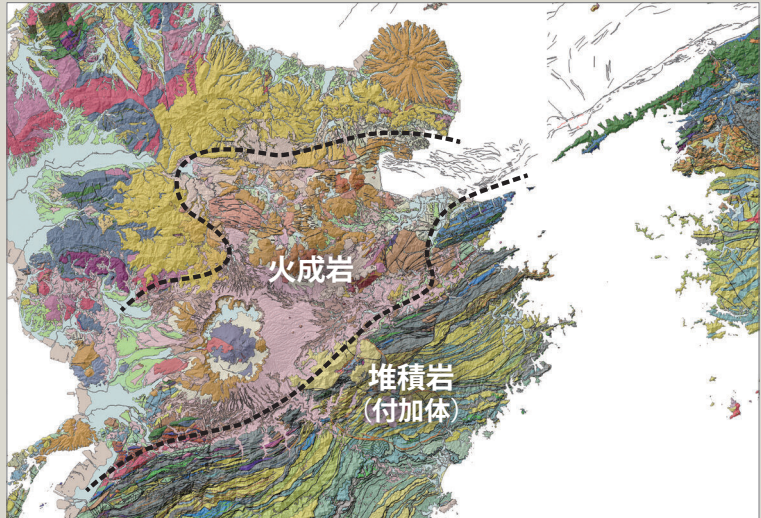
僻地だからこそその宝の山と海、語り継がれた物語。

佐伯地方を歩いて見つけた、まほろばがここにある。

# 「僻南のまほろばを歩く旅」とは

文 柴田耕二 僻南のまほろばを歩く旅プロジェクト代表

## 歩いて知る、 特異な地勢が もたらす ここにしかない 風土と文化



県央を東西に白杵八代線（地質断層帯）が走っている。この断層を境に南北で地質と地勢が相違する。北側の地質は火成岩で火山が多い。温泉が湧出する。南側は付加体と称される堆積岩でその断層に波が打ち寄せるように重畳の地層が連なっている。特にその地質が故に南側の地勢は山また山である。そういう風土が佐伯地方に独自の文化を生んだ。

出典：地質学図解 地質学辞典  
<https://ganke.jp/grenew/>  
編集：GSI | 編集：GSI/Chikuma/Geoportal/制作：GSI

## 「時速」

4 kmの旅」という言葉がある。自分だけしか体験できない「歩く旅」である。五感が眠りから覚めたように躍動し始める。景色や出会う人々が今までは違って見えてくる。

佐伯地方は地質学で「付加体」と呼ばれる「堆積岩」でできている。太平洋プレートが陸側のプレートにぶつかり、その表面が削ぎ取られるように隆起した土地である。大分県を東西に「臼杵八代線」という地質断層帯が横断している。その南側が付加体でこの断層帯に波が

打ち寄せるように重畳の山々が連なっている。火山の多い「火成岩」で成る北側とは地勢が異なる。だから温泉県はこの地にはふさわしくない。

大分県でもこの地だけに太古に堆積した「石灰岩」が一筋走っている。その露出するところを番匠川が流れ、その水流が浸食して溪谷沿いに見事な景観を造形している。重畳の山々の滋養は幾筋の河谷を通して豊後水道に注ぎ込まれる。大分県の三分の一を占めるこの地の海岸線は沈降海岸を成し、別称を「九十九浦」という。

九十九浦は天然の漁礁となり、そこに注ぎ込まれる山の滋養が豊かな漁場をもたらした。その風土故にここに暮らす人々が独自の生活文化を醸成するに至ったのは自明のことである。

土の匂い、水の音、光のうつろい、記憶の中に沈んでいた風景、祈りの記憶、静かに失われつつある暮らしの痕跡。普段見過ごされがちな身近な風景の中に豊かな物語が息づいている。人は歩くことで風土と対話する。人はそこにしかない宝物に出会うために歩く。

## 「僻南のまほろばを歩く旅展」

主催 僻南のまほろばを歩く旅プロジェクト / 共催 佐伯市 / 後援 大分県南部振興局

Art direction & Design: Kazuya Tomitaka / Copywriting: Kazuya Watanabe



HP  
僻南のまほろばを歩く旅

僻南のまほろばを  
歩く旅



歩いた一歩一歩が、地域と自分を輝かせる